

【愛知県高浜市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

高浜市では、「自分・仲間・社会の幸せのために学び続ける子どもを育む」を基本理念として、「生きる力を育む質の高い教育活動の実施」、「一人一人を大切にしたいきめ細やかな教育のしくみづくり」を基本目標に設定している。（図1）

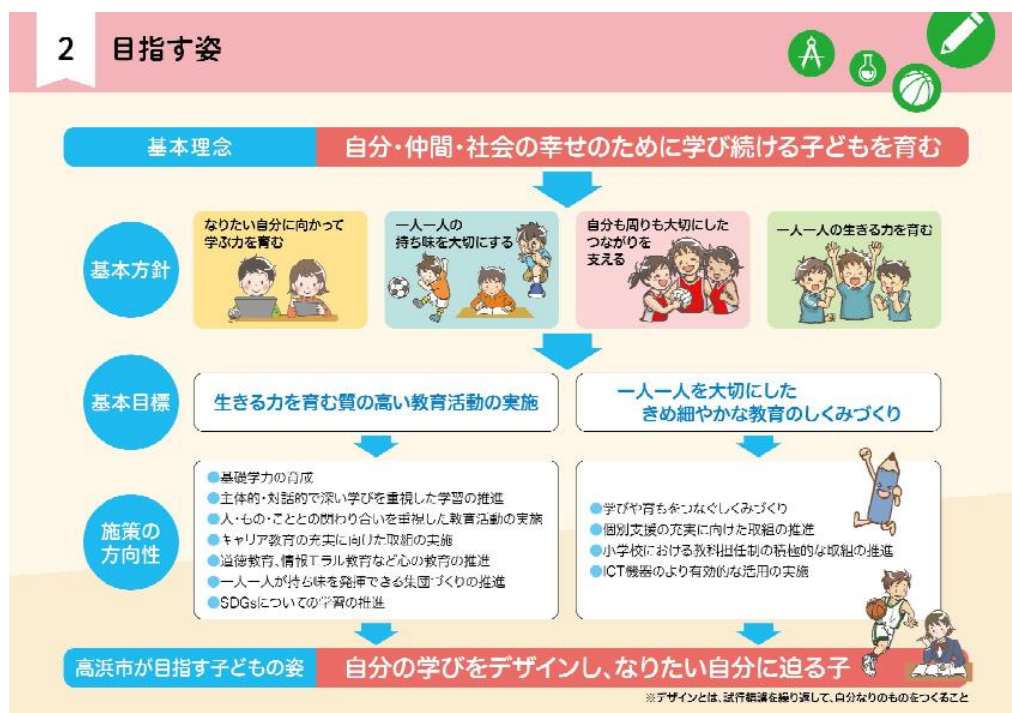


図1 「高浜市教育基本構想 目指す姿」

これらの目標達成のためには、ICT環境の整備と活用は不可欠である。ハード面とソフト面を計画的に整備し、集団としての学び、集団の中での個人の学びの質を高めていく。また、子どもたちが、端末を文房具のように当たり前活用し、時や場所に左右されず、自分の探究心を満たすべく主体的に学習できるようにしていく。そうすることで、VUCAと呼ばれる予測困難な時代でも、自分自身で判断、実行し、よりよい自分をデザインし、なりたい自分に迫っていく姿を目指す。

2. GIGA 第1期の総括

高浜市では、平成27年度よりタブレット端末の整備を開始し、平成29年度には市内小学校に学習用タブレットを40台、中学校に20台ずつ配備し、令和2年9月に、普通教室と特定の特別教室に電子黒板を設置するとともに、一人一台端末を整備し運用を開始した。すべての子どもたちが時と環境に左右されることなく、主体的かつ有効的に端末を活用できるようにセルラーモデル端末を採用した。このことにより、早期の持ち帰り学習も可能となり、新型コロナウイルスによる臨時休校や学級閉鎖などの措置がとられた際も、双方向型通信システムや学習支援ソフト、デジタル学習ドリルの活用により、学びを継続することができた。また、学習支援ソフトを用いた体育の授業における意見交換、校外学習先におけるインターネットを利用した調べ学習など、授業におい

でも活用の幅を広げることができた。

このようなハード面での整備とともに、人材面での整備も同時に進め、令和3年度からは市内全小中学校にICT支援員を配置した。これにより子どもはもちろん教員も技術的支援を受けられることとなり、どの授業においても積極的な端末活用が推進されることとなった。

これらの取組の結果、令和6年度全国学力・学習状況調査において本市は図2のような結果であった。

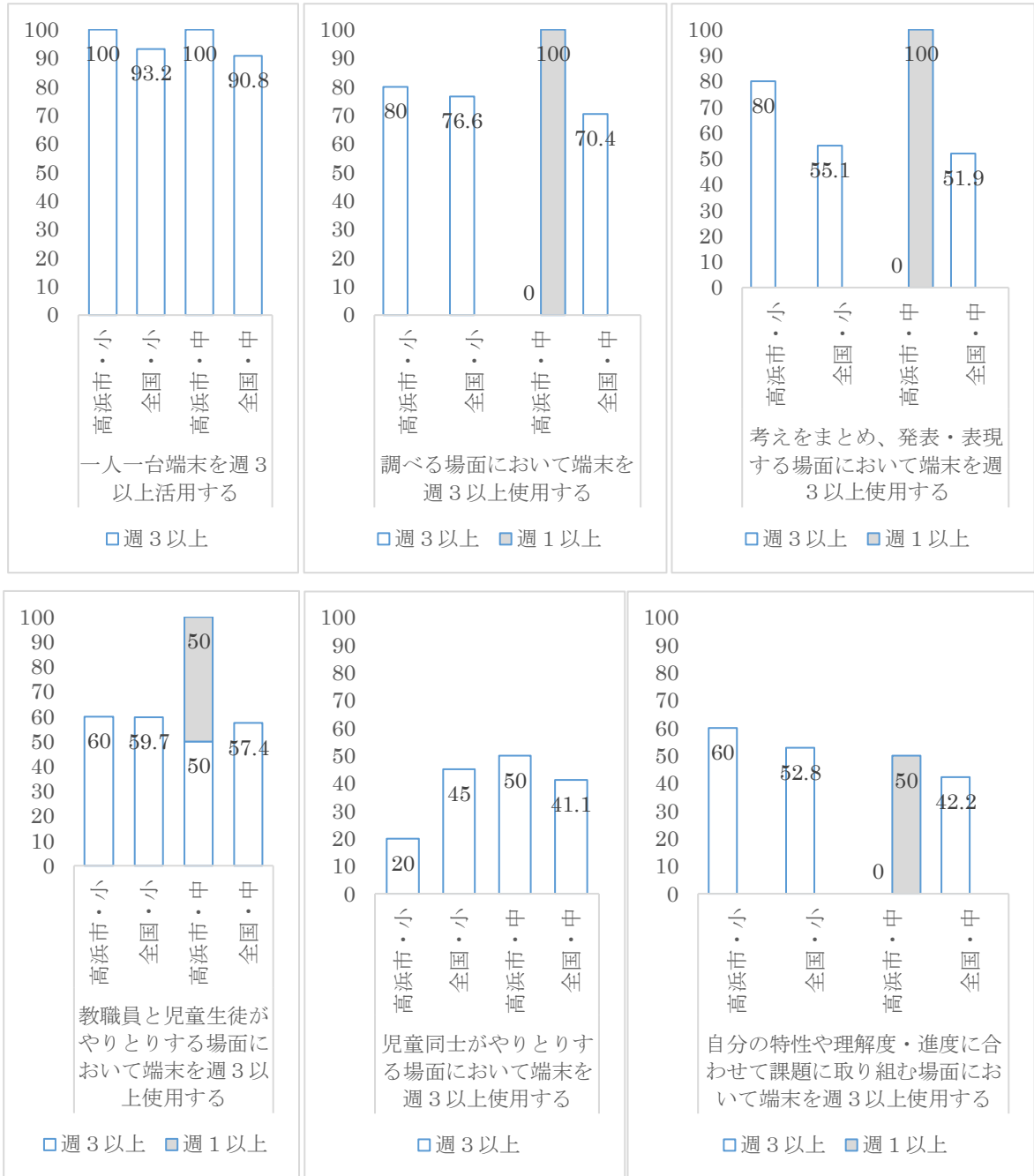


図2 「令和6年度全国学力・学習状況調査結果」

図2のとおり、授業での活用頻度は小学校、中学校ともに100%で、全国平均よりも非常に高い数値を示しており、授業でのICT端末の使用は日常となっていることが分かる。また、小学校においては、調べる場面や考えをまとめ、発表や表現する場面においても、全国平均より高い数値を示しており、子どもたちが端末を効果的に活用する場面も増えていることが分かる。

一方で、中学校は活用頻度の高さに比べて、子ども自身が端末を用いて学習を進めるというまでには至っていない結果が示されている。しかし、週1以上の活用は中学校でも進められているため、今後は、単元や授業構想の中で、そのような機会を積極的に設定していくことが必要となる。

また、小中とも子ども同士がやりとりする場面においての課題もある。同じ調査の児童生徒の回答からは、「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」や「友達と協力しながら進めることができる」という設問に対して、肯定的な意見を示している子どもが80%以上いる。子どもの主体的な学び、協働的な学びを促進していくためにも、今後は子ども同士が端末を活用してやりとりする場面を設定していくことも必要となる。

3. 1人1台端末の利活用方策

高浜市では、教育環境整備委員会にてハード面の検討を、GIGAスクール構想委員会にてソフト面の検討を行いながら、互いが連動し、高浜市教育の質の向上のため、今後も端末の整備および更新を行い、児童生徒向けの一人一台端末環境の維持を図ることはもちろんのこと、ICT環境の整備・アップデートを進めていく。

より積極的な端末活用、個別最適・協働的な学びの充実を図るため、各教師や各校で取り組んだ授業実践を収集し、市内で共有していくことで、市全体での授業活用率と質の向上を目指す。さらに、ICT支援員やベンダーと連携して各種研修の充実を図り、教師の指導力向上を目指していく。

また、一人一台端末を活用して、外国人児童生徒や特別な支援を要する児童生徒の学習支援を強化したり、不登校児童生徒の学びを保証したりしていくことで、各子どもの実態に応じた「個別最適な学び」、「協働的な学び」を推進していく。

そして、自分をデザインし、なりたい自分に迫っていくためにも、端末の積極的かつ有効な活用はもちろんのこと、正しく使用していくための情報リテラシー、情報モラルの観点も大切となる。本市では、情報モラル教育の授業を計画的に実施している。今後も、GIGAスクール構想委員会では、子どもたちの発達段階に応じた目標の見直しや情報モラル教育の授業実践の収集をしながら、情報モラル教育の一層の充実を図っていく。